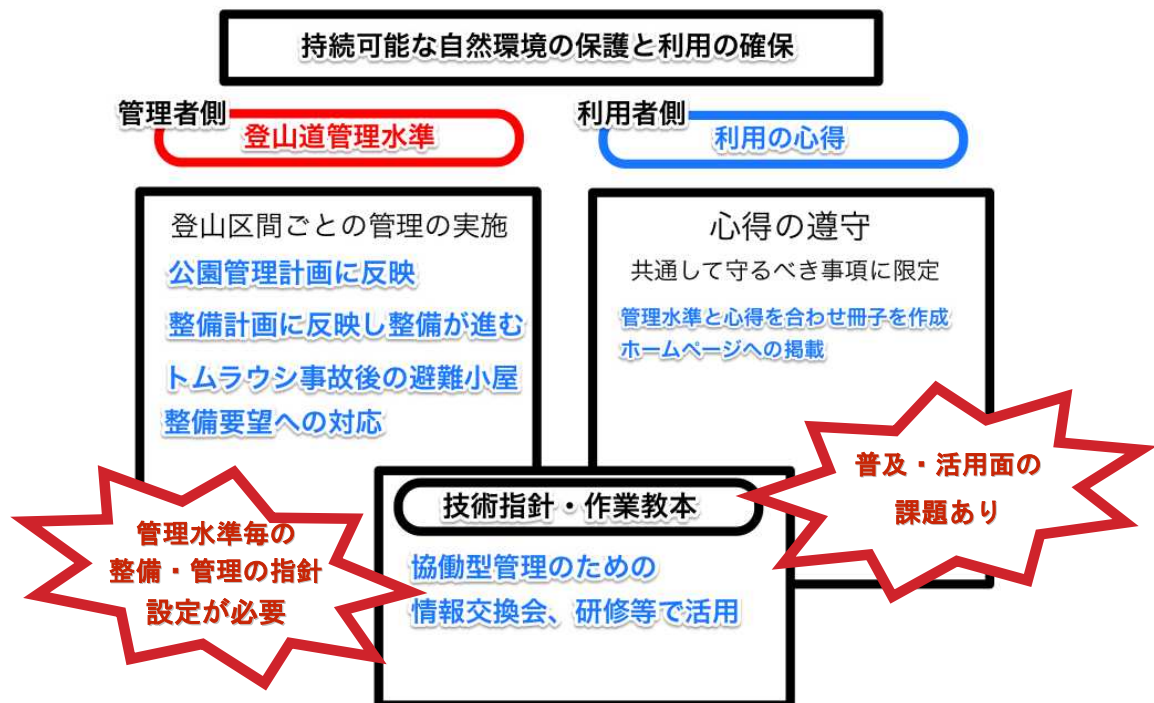


大雪山国立公園登山道管理水準・整備技術指針の再検討

環境省では、平成 13 年度より現地調査を開始し、関係者間の議論・調整ののち、平成 16 年度に整備技術指針、平成 17 年度に登山道管理水準の作成を行った。近年（平成 21 年度～）、協働による登山道維持管理の活動が行われる中で、維持管理の目標や統一した管理手法を示す登山道管理水準・整備技術指針の重要性は増している。

登山道管理水準等の成果は、近自然工法の導入や認知が進み、保全優先順位の高いルート^①の整備（沼ノ平～裾合平、沼ノ原等）が行われたり、共通の作業教本が作られたりというものがあるが、一方で、登山の心得を含めた一般登山者への周知が進まず、登山道を維持管理する多くの団体の認知度が低く、活用事例が少ないといった普及面での課題がある。



環境省では平成 25 年度より、登山道管理水準・整備技術指針の見直しに着手し、登山道の荒廃状況の調査の実施や、2 回の検討会、2 回の作業部会を行い、登山道管理水準の素案を作成した。

平成 26 年度は、登山道管理水準素案をたたき台に、各登山道について検討会や関係者への意見聴取による整理・調整を行うとともに、整備技術指針の見直し作業を実施する。

登山道管理水準（登山道レベル）の再設定においては、関係者への意見聴取の方法として、今回も含めた自然公園指導員連絡協議会の例会の場や、山岳関係者による情報交換会の場を活用。

登山道管理水準の見直しの視点

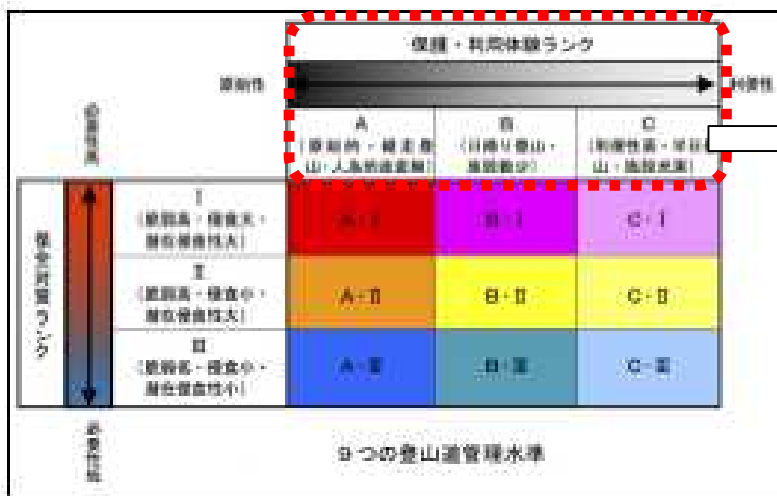
《見直しポイント》

- ・ 現行のランク付けと現状に違和感のある区間についての見直し
- ・ 前回の対象外だった路線へのランク設定の検討（三山台、トムラウシ短縮路）
- ・ 歩道通行止め、管理者不在区間への再評価（災害等による不通、管理不在の荒廃等）
- ・ 利便性変化による再評価（林道通行止め等でのアクセスの変化）
- ・ 野営指定地、避難小屋、トイレを含んでの評価
- ・ 地形・天候・行程・判断の難度を含んでの評価

《普及・活用面での課題を解消するために》

○登山道利用者が使いやすいものとする

- ・ 保護利用体験ランク（利用のあり方・難易度、雰囲気）を利用者に明示
（保全対策ランク（荒廃度・要整備重要度）は管理側の分類として利用者側には非表示）
- ・ ランクを明示した統一した標識の整備、現地とマップの統一



保護利用体験ランクを
よりわかりやすく整理

標識・登山マップで表示

○現状と理想のギャップ解消のために活用する。

- ・ ランク以上の管理を利用者から求められた時に説明資料として活用する。
- ・ ランクに応じた管理ができない場所については、できるように調整するための議論のたたき台として活用する。
- ・ 施設整備の優先順位の設定に活用する。

大雪山国立公園登山道管理水準等検討会の開催状況（平成25年度）

第1回検討会 平成25年12月 2日 札幌

- 内容
- 1) 現行の登山道管理水準、整備技術指針の構成の説明
 - 2) 現行の登山道管理水準等の活用状況と課題・見直しの必要性
 - 3) 検討会の設置承認
 - 4) 各委員より見直しに当たっての課題提起等
 - 5) 登山道現況調査（結果概要）の報告
 - 6) 意見交換

第2回検討会 平成26年 1月27日 札幌

- 内容
- 1) 第1回検討会のまとめ、今後の進め方（作業部会設置承認）
 - 2) 管理水準の普及・活用に関し意見交換
 - 3) 登山道現況調査（結果概要）の報告
 - 4) 管理水準見直しに向けた意見交換

大雪山国立公園登山道管理水準等検討会（管理水準作業部会）の開催状況（平成25年度）

第1回作業部会 平成26年 2月27日 札幌

- 内容
- 1) 現行管理水準で違和感のある区間の抽出と理由付け
 - 2) 普及に向けた発信方法の検討
保護利用体験ランクA, B, Cの3段階の見直し→5段階へ
 - 3) 管理水準見直し案（たたき台）の設定
 - ・地形・天候・行程・判断の難度を含んでの評価
 - ・三山台、トムラウシ短縮路への仮設定
 - ・ランク未設定の取扱（松仙園、ユニ石狩）

第2回作業部会 平成26年 3月 7日 札幌

- 内容
- 1) 第1回作業部会で作成のたたき台を元に意見交換
 - 2) 保護利用体験ランク・保全対策ランクの素案を作成
 - ・望ましい管理状況と現状の管理のギャップにおける仮設定（朝陽山、雲井ヶ原、クチャンベツ～沼ノ原）
 - ・不通区間の仮設定（天人峡、三段山）
 - ・作業部会委員間で意見をまとめづらかった路線（上富良野岳～富良野岳）

現行（平成17年度設定）大雪山国立公園登山道管理水準

